

提言第13号 胃瘻造設・カテーテル交換に係る死亡事例の分析

事例11

< 事例概要 >

（胃瘻カテーテル交換）

・80 歳代、脳血管性パーキンソン症候群、症候性てんかんがある、介護施設入所中の患者。意思疎通困難。BMI 16.9 kg/m²。

・2 年半前、当該医療機関で胃瘻造設。6 か月ごとに、同医療機関で胃瘻カテーテルを定期交換し、5 回目の交換で外来を受診（交換前の胃瘻カテーテルはバンパー型）。

・内視鏡下でガイドワイヤーを使用し、バンパー型カテーテルを挿入。内視鏡でカテーテル先端が胃内に留置していることを確認。

・介護施設に戻り、初回の栄養剤を注入中に嘔吐、顔面蒼白あり。発熱、呼吸促迫、上腹部の硬化を認め、その後ショック状態となり当該医療機関に救急搬送。CT検査で腹腔内に 多量の遊離ガスを認め、交換翌日に死亡。解剖の結果、瘻孔近位の胃壁に穿孔を認めた。

・死因は、腹膜炎。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。